



ごあいさつ

皆様お元気にお過ごしですか。

数が月前のことでしょうか、新聞にとても感銘を受けた記事がありましたのでもうご存知のこととは思いますが、ご紹介させていただきます。

「女性の地位向上などについて討議している国連の「女性の地位委員会」閣僚級会合で四日、ノーベル平和賞受賞者でケニア環境副大臣のワンガリ・マータイさんが演説し、日本語の「もったいない」を環境保護の合言葉として紹介し、会議の参加者とともに唱和した。

マータイさんは二月に来日した際、「もったいない」という言葉を知って感銘を受け、世界に広めることを決意したという。

この日の演説では「『もったいない』は消費削減（リデュース）、再使用（リユース）、資源再利用（リサイクル）、修理（リペア）の四つの『R』を表している」と解説、「MOTTAINAI」と書かれたTシャツを手に「さあ、みんなで『もったいない』を言いましょ」と呼びかけ、会場を埋めた政府代表者や非政府組織（NGO）の参加者とともに唱和した。さらにマータイさんは「限りある資源を有効に使い、みなで公平に分担すべきだ。そうすれば、資源をめぐる争いである戦争は起きない」と主張した。」

という内容のものです。日本語のもっている「もったいない」という言葉には損得勘定をはるかに超えた感覚があるように思います。私も「MOTTAINAI」を口癖にしたいと思います。

漆喰壁を塗る

高松俊秀さんがいま事務所を開設準備中です。場所は成田市赤坂、ボンベルタ（デパート）と隣接する好立地にあります。無垢材を古色に染め、壁には白い漆喰が塗られました。完成しましたら是非ご覧いただきたいと思ひます



漆喰を塗る

漆喰とは？

石灰（炭酸カルシウム）が原料、焼いて生石灰（きせっかい）にしたあと、水を吹きかけて消石灰にします。これが漆喰で、カルシウムと酸素と水素でできている。文字通りの自然素材です。

日本の家づくりには、昔から漆喰が使われてきた。文化財に指定されている貴重な建物の白壁も、みな漆喰である。だから、漆喰といえは日本の家の壁というイメージが浮かぶかもしれないが、実は5000年前のエジプトでも使われていた。ピラミッド内の墓にあった壁画の下地に漆喰が塗られているのだ。地中海の白い建物の壁も漆喰であるし、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」やラファエロの「天使の壁画」の下地も漆喰である。漆喰がなぜ、世界の人々に5000年にもわたって愛され続けてきたのか・・・

「いい家は無垢の木と漆喰でつくる」
神崎隆洋さん著より



大多喜城



市街に建つ建物



高野先生からのお誘いで大多喜町で新築工事をさせていただくことになりました。まず大多喜城（総南博物館）はじめ町を散歩してみました。流石は、歴史ある城下町・大多喜は重要文化財の宝庫です。木と漆喰で作られた建物が並ぶ町並みはとても美しいものです。

この町で私共が家を建てるというのはおこがましいような気がします。

発行者 ご連絡先

秋葉建設(株) 秋葉 忠夫

〒289-2163八日市場市南神崎52-1

電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824

Eメール master@woody-akiba.com

HP URL <http://woody-akiba.com/>

ご意見ご感想お待ちしております。